141
2026秋

# にってん フォーラム

高田馬場（いち　にーさん　しっ！）１－２３－４ ―― 長岡英司
温かな空気が会場に満ちた
　田中会長お別れの会 ―― 梅田ひろみ
「囲碁バブル」の中で視覚障害者囲碁大会 ―― 立花明彦
「大人と子どものための絵本と遊びの
　ワークショップ」開催報告 ―― 市川弘美
彰往察来―
　『日本における点字普及の歴史と点字文化』を読む― 大内　進
シリーズ　点字で生きる～点字制定200年～⑦
　点字の価値を見つめなおす ―― 石川龍海
生誕110年記念特別連載　創立者本間一夫の生涯⑥最終回
　東京・八王子　神は愛なり
「大喜利寄席」を開催しました ―― 西宮敏子
川崎市視覚障害者情報文化センターだより ―― 石川　麻
私と日点 ―― 岩﨑　嵩
現場の小窓 ―― 小暮　淳
明日につながる支援の力
ご存じですか？こんな商品
チャリティコンサートのご案内

ISSN　0916-8877




あなたと映画を観たい。

# 映画みにこいこ!

「スマホで聞く音声ガイド」音

NPO メディア・アクセス・サポートセンター
〒106-0041
東京都港区麻布台2-3-5 ノアビル 1 階

MASC 検索

ポッドキャスト

# 理療を再び確かな職域に

理事長　長岡 英司

1980 年代、私は視覚障害者の職域開拓の仕事をしました。当時の視覚障害者の職業は、理療（按摩・マッサージ・指圧、鍼、灸）に著しく偏っていました。職業選択の自由がないことに問題を感じ、私自身は盲学校から大学に進学して情報処理を学びましたが、力不足と当時の社会状況から、その分野での就職は叶いませんでした。その代わりに、コンピュータが社会的に身近な存在になり始めた中で、職域を開拓する仕事に就くことができたのでした。

その後、ICT（情報通信技術）の発達や支援制度の充実で視覚障害者の職業事情はすっかり様変わりしました。以前はほとんど事例のなかった事務的職種での全盲者の就労も、近年はさほど珍しくはありません。しかしその一方で、理療が視覚障害者にとって安定した職域ではなくなりつつあります。

先日、東京に住む 91 歳の全盲の視覚障害者・宇佐美英雄さんから、20 年前に自費製作した自分史『恵まれし出会い』を、当館奥村文庫（資料室）にご寄贈いただきました。この A5 判 118 ページの墨字本には興味深い事実が多く記されています。なかでも、高校時代に視覚障害になり、恩師やその紹介で知り合った政治家と実業家に励まされて理療の道に進んだ経緯は心に響き、開業した治療院を斬新な発想と実践で発展させた努力には感心させられました。三つ揃いの正装で出張治療に行くようにしたところ信頼が深まり、口コミで患者さんが増えたこと、著名な文化人を治療して親しくなった結果、施術の有効性があちこちに伝わって多くの作家や芸能人、スポーツ選手などを治療するようになったことなどが巧みに綴られています。時代は変わったものの、そうした積極的な姿勢が、視覚障害者による理療の活性化に繋がるのではないでしょうか。理療は人々の健康維持に役立ち、しかも皆に頼られる魅力ある仕事です。視覚障害者が希望を持って選択する職域の一つとして、永くあり続けてほしいものです。

# 温かな空気が会場に満ちた田中会長お別れの会

元職員　梅田（うめだ）　ひろみ

去る6月10日の午後、ホテルグランドヒル市ヶ谷にて田中徹二（たなかてつじ）さんのお別れの会が催されました。献花をすませ、懐かしい方々と挨拶を交わしながら手元の式次第に目を移すと、本間一夫先生と並んだ田中さんや海外協力事業等での写真と共に、「高校時代に描いた色鉛筆画」と記されたつば広の帽子を被り赤い服を着た青い目の女性と赤い靴（？）の緻密な模写画に目を惹かれました。早稲田大学理工学部の建築学科にいらした田中さんなので、緻密な絵を描かれて当然なのでしょうが、これまで存じ上げていた田中さんと異なる一面を拝見するような思いで見入ってしまいました。

さて、お別れの会は共用品推進機構専務理事の星川安之（ほしかわやすゆき）氏の司会で始まり、立花現館長による業績紹介の後、岩上義則（いわかみよしのり）元館長や元職員で点字楽譜利用連絡会事務局の上田喬子（うえたたかこ）氏、元秘書の松本美都子（まつもとみつこ）氏、元東京ヘレン・ケラー協会業務執行理事の福山博（ふくやまひろし）氏が故人との思い出を語り、そのあと聖明福祉協会会長の本間昭雄（ほんまあきお）氏がメッセージを述べて下さいました。97歳の本間氏は田中さんとの思い出、特にお酒を交わして語りあわれたことをお話し下さいましたが、きりりと前に立って話される姿には感動しました。元NHKエグゼクティブディレクターの迫田朋子（さこたともこ）氏、点字毎日編集長の濵井良文（はまいよしふみ）氏、タカラトミーの高橋（たかはし）玲子（れいこ）氏のメッセージに続き、ニューヨーク在住のミュージシャン加納洋（かのうよう）氏のお手紙を、ご列席の元NHKアナウンサー青木裕子（あおきゆうこ）氏が朗読下さいました。

私は田中理事長時代の2011年7月に退職し宮崎県に転居、コロナ後お目にかかる機会のないままでした。歯に衣着せぬ物言いで高らかに笑われる姿が今も目に浮かびますが、若い人、特に視覚障害の若手にはいろいろとチャンスを下さり育てようとされていました。思い出を語られた上田氏もそのお一人でしょう。お別れの会はかつて若手だった職員達が中堅としてしっかり取り仕切っていました。田中さんも安心して、あちらで旧知の方々とまた飲み交わしておられるだろうと思えた温かな会でした。ありがとうございました。

# 「囲碁バブル」の中で視覚障害者囲碁大会

館長　立花（たちばな）　明彦（あけひこ）

緊張した空気が流れる静寂な会場には、碁笥（ごけ）の石をつまむ音と時おり「当たり」と発する声が聞かれるのみ……。NPO 法人日本福祉囲碁協会と当館共催の「2026 年度視覚障害者囲碁大会」は渋谷区リフレッシュ氷川を会場に去る 6 月 20 日に開催されました。

視覚障害者が利用できるよう改良された碁盤「アイゴ」は、線が立体的に浮かび上がり、碁石を固定できる画期的なもので、1980 年代に考案されました。しかし一時期、生産が中断され、囲碁は視覚障害者にとって縁の薄いものになっていました。

時が流れて 2013 年、囲碁に興味を持った当事者らの働きかけで金型が造られ、安定供給できる体制が整えられました。同時に日本視覚障害者囲碁協会が発足し、普及活動が繰り広げられると、年を追うごとに視覚障害者の囲碁人口が増え、昨今では「囲碁バブル」なる言葉も囁かれるほどです。各地で大会も開かれていて、都道府県の持ち回りで毎年開催される国民文化祭では関連イベントとして全日本視覚障害者囲碁大会が行われています。

故田中徹二会長も囲碁愛好家でした。当館では、2010 年からコロナ禍前まで「日点カルチャー講座」を開講し、メニューの一つに囲碁教室を設けていましたが、これは田中会長の提案によるものです。この教室をきっかけに、2016 年、「国際視覚障害者囲碁東京大会」を開催。2018 年に「平成 30 年度視覚障害者囲碁大会」と名称を変えて継続し今日に至ります。今年の大会には視覚特別支援学校の生徒から 80 歳代までの老若男女 30 名が参集。首都圏以外からは新潟、富山、群馬、大阪からの参加もありました。

囲碁の面白みは、立体的に浮かび上がった線と触感の違う碁石を触って頭に盤面を描き、脳内地図の精度を向上させ、数多な変化ある手筋の中で、どれか一つを決めて打つ。その後に展開される盤の変化と、障害の有無にかかわらず、誰とでも盤上で対等の対話ができることにあるとか。「囲碁バブル」、もしかすると、当館の囲碁教室もその火付け役の一翼を担ったかもしれません。

# 「大人と子どものための絵本と遊びのワークショップ」開催報告

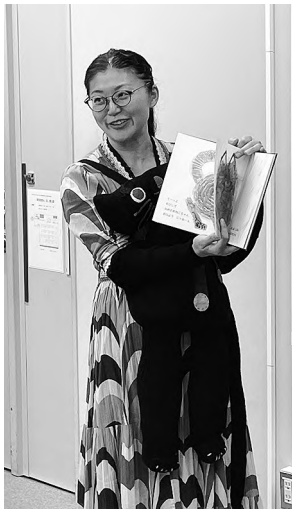
自立支援課　市川（いちかわ）　弘美（ひろみ）

去る８月 18 日、自立支援室と放課後ルームいちご（視覚障がい児の放課後や夏休みの居場所）が共同で、「大人と子どものための絵本と遊びのワークショップ」を開催しました。

今回のイベントは、日頃から書店や図書館等で絵本の読み聞かせや工作を通じた点字・手話の普及活動を行っている絵本作家・ほんまちひろさんのご協力により実現しました。自立支援室の訓練生と視覚障害のある子どもたちが一緒に楽しめる場にしたいという思いから、両者の交流が生まれました。

当日は、小学１年生から中学２年生までの子どもたち 11 名と、自立支援室の訓練生・卒業生６名が参加し、大人と子どもが入り交じってテーブルを囲みました。

前半は、ほんまさんによるお仕事紹介と読み聞かせです。お仕事は、絵本制作に留まらず合唱曲などの作詞や海外絵本の翻訳まで幅広く手がけていることが語られ、翻訳時の言葉選びに関するエピソードも明かされました。読み聞かせでは、歌詞として制作された『窓のうた』『水をのむ』『カナブン』[*1] に加えて、ほんまさんが翻訳された絵本『ともだちになろう』[*2] が朗読されました。ほんまさんの楽しくて分かりやすいお話に、子どもも大人もすっかり引き込まれていました。



ほんまちひろさん





**工作体験を楽しむ参加者**

後半は工作体験です。ほんまさんが準備した猫の顔や全身のモビールパーツに、大きさや手触りの異なるハートや星、丸、三角などのシールを自由に貼り付けていきました。子どもたちと一緒に来場し、傍に座っていたガイドヘルパーさんからサポートを受けながら、子どもたちは顔の周りにひげを貼ってライオンにアレンジしたり、裏表で異なるデザインに挑戦したり、完成したモビールで人形劇を始めたりと、豊かな想像力を次々と爆発させました。

大人の参加者たちも真剣なまなざしで取り組み、時折子どもに優しく話しかけ、工夫しているところを聞き出すなど、温かなコミュニケーションが交わされました。

終了後、子どもたちからは「日点に来たことはあったけど、工作したのは初めて。すごく楽しかった！」「もっと本を借りようと思った」「またやりたい！」と嬉しい感想が続出しました。大人たちからも「子どもたちとの交流が楽しかった」と笑顔がこぼれました。

今回の経験を踏まえ、今後も当館をより多くの方に利用していただけるよう、様々な企画を検討していきたいと思います。

＊1『窓のうた』『水をのむ』『カナブン』は、『同声（混声）合唱とピアノのためのまちの音』（ほんまちひろ 詩／寺嶋陸也 作曲／音楽之友社）に収録

＊2『ともだちになろう』（ミース・ファン・ハウト 作／ほんまちひろ 訳／西村書店）

# 彰往察来(しょうおうさつらい)―『日本における点字普及の歴史と点字文化』を読む

手と目でみる教材ライブラリー　大内(おおうち)　進(すすむ)

2025年は、ルイ・ブライユが点字を考案して200年の節目にあたる。日本でも、日本視覚障害者団体連合や日本点字委員会などによって組織された「点字考案200年記念事業推進委員会」によってさまざまなイベントが開催された。その一環としてこの３月に『日本における点字普及の歴史と点字文化』と題した書籍が刊行された。

本書は、わが国における点字にかかわるさまざまな領域の泰斗ともいえる９人の著者によって執筆されている。本書によって、点字表記法、盲教育分野での対応、点字出版、点字雑誌、点字図書館、点字の公認運動、点字用具の開発の歴史、ICTとの関係などについて、日本点字が翻案されてから現在までのプロセスとそれらの到達点を学び、わが国における点字の発展と文化活動の繁栄を知ることができる。

他方、第９章に示されている2010年から2022年までの電子図書館サピエのデータは、今後の点字普及の厳しさを象徴的に示している。2010年の点字図書の所蔵タイトル数124,073、年間ダウンロード数が708,944であるのに対し、2022年はそれぞれ、253,223、471,177となっていた。所蔵数の倍増に対し、ダウンロード数は３分の２に減少している。ICTの利便性が高まる一方で、点字図書利用が激減している。筆者は一時期点字図書館に関わっていたが、点字図書に比べて録音図書の貸し出し数が圧倒的に多く、そのジャンルも官能系文芸作品に偏重しているという状況を目の当たりにした。現状を傍観しているならばこの危機的状況はさらに進んでいくと推察する。

各著者も点字を取り巻く厳しい状況については認識し、点字普及や点字文化の発展に向けての課題を示している。高齢化と盲学校在籍者減少が進み、点字常用者は一層少なくなっていく。点字を未来永劫に存続させるためには、墨字表記と点字表記の特質の違いを考慮しつつも点字常用者だけの文字ではなく、可能な限り共通言語として利用しやすい文字へと育てていく必要がある。過去を知り確かな未来を展望することが何よりも求められている。そのような観点から読み進めていくことに本書の意義はあるだろう。

## シリーズ　点字で生きる〜点字制定200年〜⑦

# 点字の価値を見つめなおす

## 〜より日常的な存在になることを願って〜

視覚障害者総合支援センターちば　石川（いしかわ）　龍海（たつみ）

先天性の全盲の私にとって、点字は早くから「強制的に習うもの」でした。それ自体は素直に受け入れたのですが、使いこなすまでに長く苦労したのを覚えています。

しかも、小学校１年生のとき、先生に促されて借りた本は『銀河鉄道の夜』でした。鉄道が大好きだからと借りてみたものの、全く面白くなく、僅か３ページほどで挫折してしまいました。

以来、今に至るまで読書はあまり好きではありません。それでも点字図書館職員として長年働き続けられている理由の一つは、仕事へのやりがいです。

私は、点訳図書製作を担当している他、点訳や視覚障害に関する各種講座の講師を数多く務めています。また、視覚障害者のIT支援や点字の触読指導にも携わっています。読書家ではない一方、言葉を操ること、人と話をすることは好きなようです。

そうした中で最近考えるのは「点字の読書以外の価値」です。

私は全国を鉄道やバスで旅しますが、このとき、誘導などの援助を頼みません。それでも移動ができるのは、駅や車内の点字サインがあるからです。いくら歩行訓練で移動という困難を克服しても、情報を得られなければ単独での外出は難しくなるでしょう。でも、点字サインをフル活用できることで、迷っても間違っても大丈夫という自信が生まれます。

そして最近、中途視覚障害の方から「まだまだ読むのは遅いけど、点字を読むようになって触覚が鍛えられた」というお話を聞きました。点字を強制的に覚え、触覚を使いこなすことが必須だった私にとって、これは目からうろこでした。

また、少しでも点字を読んだ経験のある中途視覚障害の方は、物に触れるときの手の使い方が柔らかく、これは大切な能力だと思います。

私が知る限り、教育・福祉分野ともに、点字の読みの評価は「何ページ何分で読んだか」になりがちだと思います。でも、QOLの向上や生活を便利にするツールとして、点字を見つめなおすことも大切だと考えるようになりました。

生誕110年記念特別連載◎創立者本間一夫の生涯⑥最終回

# 東京・八王子　神は愛なり

本間一夫記念室

事業の急成長期、1967（昭和 42）年には常陸宮華子妃殿下が、続いて 1969（昭和 44）年には美智子皇太子妃殿下がご視察に来館された。

1971（昭和 46）年に藍綬褒章を受章。

1974（昭和 49）年８月 10 日、長年連れ添った妻喜代子が病で亡くなる。結婚は 1943（昭和 18）年、太平洋戦争のさなかである。疎開先では夏の炎天下に一夫と二人、リヤカーで郵便局まで点字図書を運び、戦後の苦難の時代は、住み込みの職員もいる図書館兼用の自宅で二人の子供を育て上げ、また結婚を控えた盲女性には料理を教えるなど、利用者からも慕われた妻であった。真夏にもかかわらず葬儀には５百名もの参列があった。

1978（昭和 53）年、理事長に就任。点字図書と録音図書の製作貸出事業、盲人用具事業と、日本を代表する視覚障害者施設として発展し、何度かの増築、建替えなどを行ってきたが、時代と共に社会も変化してきた。次世代の頼りとして直居鉄が 1982（昭和 57）年４月から 1991（平成３）年３月まで副館長に就任、そのあとを受け田中徹二が一夫に代わり館長に就任し、デジタル時代への対応を行った。

1985（昭和 60）年、勲四等旭日小綬章受章。

1992（平成４）年３月、心臓病を患い東京女子医大付属病院においてバイパス手術を受け、45 日間の入院をするなど体力的に衰える。

建物の老朽化に対し国の補正予算が付き、1996（平成８）年には地上５階建ての新本館が、1998（平成 10）



**1971 年 11 月　藍綬褒章受章の朝、喜代子夫人と**

年には地下２階地上３階建ての新別館が完成し、現在の形となる。

「新館披露の会」には皇后となられた美智子様にご臨席を賜った。

2001（平成 13）年４月。朝、出勤した一夫は１階ロビーで転倒。痛みを感じながら午前中は執務していたが、午後病院に行き股関節骨折と診断される。約 50 日間、社会保険中央総合病院（現 東京山手メディカルセンター）において入院治療した。６月１日、85 歳になっていた一夫は理事長職も田中に譲り会長となる。会長となってからも寄付者への礼状を書くことは続けた。

2003（平成 15）年１月、肺炎と心不全のため入院。５月に退院し自宅療養するも、８月１日 13 時 30 分、心不全により 87 年の生涯を閉じた。同日付けで従五位に叙せられる。

９月９日。虎ノ門にある全社協・灘尾ホールにてお別れの会を開催した。故郷北海道をはじめ全国から、利用者、点訳ボランティア、朗読ボランティア、関係施設、関係団体等々、会場からあふれる千名を超える参会者があり別れを惜しんだ。

今は東京・八王子霊園にて妻喜代子と共に「神は愛なり」と書かれた墓石の下に眠る。

一夫は、当館事業のほか外部団体の役職を多く歴任した。以下、主なものを就任順に記す。（法人格・名称は就任当時）

・中央身体障害者福祉審議会 委員
・社会福祉法人日本盲人社会福祉施設協議会 副会長
・東京都身体障害者福祉審議会 委員
・日本盲人福祉研究会 会長
・社会福祉法人日本盲人福祉委員会 理事
・財団法人日本テレビ系列愛の小鳩事業団 評議員
・通商産業省工業技術院産業技術審議会 専門委員
・社会福祉法人トット基金 理事
・視覚障害者食生活改善協会 理事
・財団法人テクノエイド協会 評議員
・社会福祉法人全国盲ろう者協会 理事
・財団法人読売光と愛の事業団 理事



**1997 年１月　新本館前にて（当時 81 歳）**

# 林家こん平事務所主催「大喜利寄席」を開催しました

図書情報課　西宮（にしみや）　敏子（としこ）

去る８月22日（土）当館を会場として、一般社団法人林家（はやしや）こん平（ぺい）事務所主催による「大喜利寄席」を開催しました。今回の催しは、落語を中心とした伝統芸能で視覚障害者の方々に笑いと交流のひとときを届けることを目的に実施したもので、53名の方にご来場いただきました。

初めに、笑福亭羽太郎（しょうふくていはねたろう）さん、立川談声（たてかわだんせい）さん、立川志ら門（たてかわしもん）さんの３名の演者が出演し、それぞれが持ち味を生かした巧みな話芸で落語を披露されました。演者の軽快な語り口と絶妙な間合いに、会場のあちこちで笑いが起こり、来場者の皆さんがどんどん物語の世界に引き込まれていく様子がうかがえました。

続いて、この３名の演者と司会、座布団運びの方による大喜利が行われました。機知に富んだやり取りが続く中、司会の絶妙な合いの手も入り、大きな笑いとともに拍手が沸き起こりました。また、参加者全員で「その心は」と声を出して大喜利に参加するなど、会場全体に一体感が生まれ大いに盛り上がり、単なる鑑賞にとどまりませんでした。

ご来場いただいた皆さまには、演者の言葉の表現力や声の抑揚など落語の魅力を存分に味わい、笑いのひとときを楽しんでいただきました。そして、終了後には「笑点」で実際に使われている座布団に触っていただくなど、落語の世界をより身近に感じていただける催しとなりました。

※今回ご出演いただいた演者の皆さまは、関連企画として実施している「笑いがもたらすEYES　都電落語会」の口演終了後に駆けつけてくださいました。感謝申し上げます。



左から、笑福亭羽太郎さん、立川志ら門さん、立川談声さん

川崎市視覚障害者情報文化センターだより

# 仲間と過ごす貴重な時間
## ーサロン型の取り組みから生まれる新たなつながりー

利用者支援グループ　石川（いしかわ）　麻（あさ）

川崎市視覚障害者情報文化センターでは、今年度より新たに「ほっこりサロンアイ eye」というサロン型の取り組みを始めました。この企画は、利用者様同士の交流を主な目的としており、事前予約を必要とせず、気軽に参加していただけるところが大きな特徴です。また､見えづらさを感じ始めて間もない方､視覚以外にもご病気や障害のある方も参加しやすいような内容での実施を心掛けています。

サロンは、最初に座った状態でできるエクササイズや脳トレなどを行い、参加者同士の交流のきっかけをつくることから始めます。音楽に合わせて体を動かしたり、一定のリズムで足踏みをしながらしりとりをしたり、リラックスして参加できるプログラムとなっています。当日の開始時刻までどなたが参加されるのかわからないことも含め、この時間を大切にしています。

その後､「食事」や「リフレッシュ方法」など、その日のテーマに沿って話します。日ごろの不安やお困りごとを打ち明ける方、自分の経験や工夫を紹介する方など思い思いのペースで語り合い、ときには自然とテーマから離れて新たな話題で会話が広がる場面もみられます。さらに、その日のテーマに関連した視覚を補う用具や便利グッズ、当センターで新たに取り扱いを開始した商品などに触れていただく時間も作っています。視覚障害当事者である職員が中心となってこのサロンを実施しているため、参加された方々も積極的に声を出し、協力して進めてくださっています。

このサロンは、今年度３～４カ月に一度のペースで行う予定で、今後も定期的に実施できるよう、試行錯誤を重ねているところです。様々な思いを抱きながら、それぞれの見え方と向き合っていこうとされている方々が集える機会の提供を目指していきたいと考えています。

日本点字図書館は、指定管理者として、川崎市視覚障害者情報文化センターを運営しています。

# 私と日点

## 82歳で読書ならぬ聞書（対面朗読）の喜びを覚える

利用者　岩﨑 嵩（いわさき たかし）

日本点字図書館の対面朗読を利用して早30年近くになる。社会・経済の月刊誌等を対面朗読して頂いてきた、あの頃は他の図書館も含め週に5時間程度の利用であったが現在では週に10時間ほどになっている、特に今春に入り週に14時間は超えている、時間増加の要因は「おどろきの刑事司法　“犯罪者”の作り方」村木厚子（むらきあつこ）著、「女の“変さ値”」鎌田實（かまたみのる）著、「棺桶まで歩こう」萬田緑平（まんだりょくへい）著、「年とる力」阿川佐和子（あがわさわこ）著、「ウェルビーイング」前野隆司（まえのたかし）・マドカ共著、「急に具合が悪くなる」宮野真生子（みやのまきこ）・磯野真穂（いそのまほ）共著、ほか約十数冊を超える興味深い書籍の存在である。定期聞書は月刊CD：文藝春秋・VOICE等がある。学生時代は0.06以下の視力では一部の教科書を拡大レンズで読むのみであったが19歳の夏にシュトルムの「みずうみ」を読み、主人公ラインハルトの気持ちになってF 80号の油絵を描いた、油絵は小学校高学年より描いており全国学生展・東京六大学美術連盟展・同志社大学クラマ画会との交流展等に出展していた。キャンバスに顔を近づけ夢中になって筆を動かし顔も服も絵の具だらけになったことが懐かしい。私の好きな色はローズコバルトバイオレットとプルシャンブルーである。好きな絵はゴッホ、アンリー・ルソー、バルテュス、小杉小二郎（こすぎこじろう）の作品で、機会があれば対面したい。また、油絵創作と並行してコリー犬の飼育と繁殖に取り組み日本コリークラブ等の大会に日曜日になると足を運んでいた。63歳からは盲導犬と歩行しているが彼らの働きは素晴らしいかぎりである。

年齢と共に自由な時間が増え各図書館での対面朗読の有効活用は私にとって大切な時間となっている。

日本点字図書館の創立者である本間一夫氏に敬意を表し、職員の方々と朗読ボランティアの方々に心より感謝を申し上げると共に激しく変化する社会環境下で日本点字図書館の素晴らしい総合力を更に発揮し、常に新しい日本点字図書館として大いなる発展を願い、期待している。

# 点字の図書の郵送

図書情報課　小暮（こぐれ）　淳（あつし）

当館では、点字と録音の図書・雑誌の貸し出しを、主に郵送でやりとりしています。郵送で点字図書を送るときは、当館では専用の郵袋（ファスナー留めで２巻まで収容可能）または郵送箱（マジックテープ留めで３巻まで収容可能）を使用しています。これらは約 30 年前に製作されたもので、頑丈なため現在でも使用できますが、両者とも現在では製造されていませんし、同じものを製造できる業者もありません。

なお郵送箱には、布製の外装があります。職員やボランティアによってその製作当時に、一つ一つ縫製され設えたものです。大切に使用していますが、経年劣化に逆らえず、ほつれや汚れが目立つ部分も増えており、あまり心地よい状態とはいえません。

そこでこのたび、郵送箱の外装を新調しました。仲介業者によると、近年の製造業は人材が少なくなり、多くが閉業や規模縮小しているとのこと。そんな中、熱心に製造会社をお探しいただいたのです。新しい外装は、紺色の幌布（ほろぬの）を主たる材料とし、箱や中の点字図書への防水にすぐれています。ほつれなどの劣化も大いに抑えることができそうです。さらにはふたのマジックテープ部分の幅を広げ、図書が飛び出ないくらいにしっかりと閉じやすく、利便性の高い構造です。かなり頑丈で、長期にわたって使用できそうなつくりとなりました。




特殊な外装なので、製造していただいた業者には感謝しきりです。まだまだすべての外装を切り替えてはいませんが、これからも気持ちよく点字図書をご利用いただけるよう、努めてまいります。

## ◆◆◆ 明日につながる支援の力 ◆◆◆

このコーナーでは、当館をご支援くださっている団体・企業などをご紹介します。（総務部）

# 一般財団法人 NHK 財団

視覚障害者がテレビ番組を楽しむには、登場人物の動きや場面、背景などの視覚情報を言葉で説明する音声解説が必要です。

日本放送協会（NHK）では、ニュースやスポーツ番組などの生放送を除く、ドラマやドキュメンタリーなど事前に収録された番組のほとんどに音声解説がついており、視覚障害者は、解説を流す副音声を利用して楽しんでいます。しかし映像がなくても主音声と音声解説が合体した録音物があれば番組を楽しめることから、当館では NHK の協力を得て、同協会製作番組の音声を編集し、「テレビ・デイジー」と名付けた CD 図書を貸し出し、多くの利用者に楽しんでいただいています。

3 月 31 日現在、「テレビ・デイジー」は 442 タイトルを所蔵し、昨年度は 3,406 タイトルの利用がありました。ちなみに昨年度に利用の高かったのは以下の番組でした。

・「日本の話芸」シリーズ　　・「スペシャルドラマ 坂の上の雲」
・「連続テレビ小説 あんぱん」　　・「金曜時代劇 柳生十兵衛 七番勝負」
・「BS 時代劇 雲霧仁左衛門ファイナル」
・「大河ドラマ 篤姫」

これらの編集製作費用は一般財団法人 NHK 財団から助成をいただいています。同財団は、NHK 及び放送メディア等の普及・発展に資する事業を行うとともに、NHK グループにおける社会貢献事業推進の中核として、国内外の文化の向上と社会の発展及び福祉の向上に寄与することを目的として活動をしております。当館も、今まで約 40 年にわたりご支援をいただいております。長きにわたる助成に感謝いたします。

# ご存じですか？ こんな商品

わくわく用具ショップより、どなたが使っても便利な新商品をご紹介いたします。ウェブショップからもお買いものができます。ぜひご利用ください。
お問い合わせ　03−3209−0751
URL　https://yougu.nittento.or.jp/

## 白杖用ピタコ３点セット

［大きさ］
　ピタコ：（縦）120 ×（幅）25 ×（高さ）10㎜　クリップの開き 10㎜
　mini ピタコ：（縦）43 ×（幅）15 ×（高さ）15㎜　クリップの開き 5㎜
　白杖用ベルト：（幅）30 ×（長さ）82㎜
［メーカー］ 松ノ助（日本製）
［価格］ 5,500 円（税込み）






白杖を伸ばしたまま、衣類やバッグに固定できる磁石式のホルダーです。「ピタコ」「mini ピタコ」「白杖用ベルト」の３点が入ったスタートセットです。

「ピタコ」はＴシャツやシャツ、ジャケットなどの衣類用で、「mini ピタコ」はリュックの持ち手やショルダーベルト用です。「ピタコ」「mini ピタコ」をそれぞれ衣類やバッグに取り付け、「白杖用ベルト」を杖のパイプ部分に巻いて使用します。角度も調整でき、立っているときも座っているときも使用できます。会計や手洗い、スマートフォンの操作など、両手を使いたい場面に便利です。蓄光シールと鈴が付いているため、暗い場所やバッグの中でも見つけやすく、白杖の置き場所に困る場面をサポートします。

## 第24回本間一夫記念日本点字図書館チャリティコンサート
## ベートーヴェン ピアノソナタ ～名曲にふれるひととき～

［日時］2026年12月12日（土）14時開演（13時30分開場）

［会場］練馬文化センター 小ホール　※例年と会場が異なります

西武池袋線　練馬駅 中央北口より徒歩1分
都営大江戸線 練馬駅 北口より徒歩1分

［料金］4,000円（全席自由）

故田中会長が好んで聴いていたベートーヴェンの初期から晩年の傑作を草冬香さんの演奏でお届けします。

［曲目］ピアノソナタ第8番 ハ短調 Op.13「悲愴」
ピアノソナタ第14番 嬰ハ短調 Op.27 No.2「月光」
ピアノソナタ第31番 変イ長調 Op.110
ピアノソナタ第23番 ヘ短調 Op.57「熱情」

チケットは当館総務課（電話 03-3209-0241）、わくわく用具ショップのほか、チケットぴあでもお求めいただけます。
皆様のご来場を心よりお待ちしております。

チケットぴあ


にってんフォーラム〈第141号〉　2026　秋

発　行　2026年10月25日〈年４回発行〉
発行人　長岡英司
編集人　立花明彦
発行所　社会福祉法人日本点字図書館
〒169-8586 東京都新宿区高田馬場1-23-4
電話03-3209-0241（代）　FAX03-3204-5641
URL　https://www.nittento.or.jp/



＊本誌の記事を撮影したり光学的に読み取ったりして、ＳＮＳ等で発信、ウェブサイトへ転載することを固くお断りします。

第24回 本間一夫記念日本点字図書館チャリティコンサート

Beethoven
Piano
Sonata

# ベートーヴェン ピアノソナタ

## ～名曲にふれるひととき～

Program

第8番「悲愴」作品13
第14番「月光」作品27-2
第31番　作品110
第23番「熱情」作品57



Kusa Fuyuka

Piano

**草　冬香**

くさ　ふゆか ... ピアノ

東京藝術大学を経て、同大学院修士課程修了。ドイツ国立フライブルク音楽大学を最優秀の成績で卒業、国家演奏家資格を取得。第４回ローゼンストック国際ピアノコンクール第１位、第３回アルトゥール・レプティーエン国際ピアノコンクール第１位等、優勝・入賞多数。ブダペスト春の音楽祭、モーツァルト音楽祭、軽井沢八月祭、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン、ヴィオラスペース等国内外の音楽祭、またハンガリーラジオ、SWR（南西ドイツ放送局）、NHK-BSクラシック倶楽部、NHK-FMリサイタル・ノヴァ、リサイタル・パッシオ等に出演。東京藝術大学音楽学部ピアノ科非常勤講師を経て、現在洗足学園音楽大学非常勤講師。

**2026.12/12（土）**

**開演**　14:00（開場 13:30）
**料金**　4,000円（全席自由）
**会場**　練馬文化センター 小ホール
東京都練馬区練馬 1-17-37

お申し込み・お問い合わせ
日本点字図書館　03-3209-0241
（火～土　9:00～17:00）

主催：社会福祉法人　日本点字図書館
後援・助成：社会福祉法人 テレビ朝日福祉文化事業団
後援：公益財団法人　日本テレビ小鳩文化事業団／公益財団法人　毎日新聞東京社会事業団
社会福祉法人　朝日新聞厚生文化事業団／社会福祉法人　読売光と愛の事業団
協賛：株式会社イオン銀行／株式会社 マルハチ村松／國稀酒造株式会社

公演サイト

PLEXTALK

# プレクストーク
# ポータブルレコーダー

# PTR3 PLUS




聴く

録る

持ち出せる

- サピエでも、CD でもデイジーを楽しめる
- デイジーで録音、メモが取れる
- iPhone 向けアプリ「プレクストークリーダー」を 6 年間無料で利用可能
- 「ラジコ」を標準装備
- 点字ファイル（BES、BSE）の読み上げを標準装備

## 録音図書「デイジー」を楽しむスタンダード機

**標準小売価格　¥85,000（税込）**

DAISY OK

より詳しい情報はホームページで！　プレクストーク　検索


**総販売元**

**シナノケンシ株式会社**
〒386-0498
長野県上田市上丸子 1078

**お問い合わせ窓口**

TEL　：050-5804-1177（月～金 9:30 ～ 12:00、13:00 ～ 17：00）
URL　：www.plextalk.com
E-mail：plextalk@aspina-group.com



※記載の情報は 2026 年 6 月のものです。機能および外観デザインなどは、性能向上その他の理由で、予告なく変更することがあります。
PLEXTALK/ プレクストークはシナノケンシ株式会社の商標です。